

## 月報

&lt;456号&gt;

ケルンボン日本語  
キリスト教会

二〇二三年二月十九日

「イエスさまとお会いするために」

佐々木 良子

私は一二月に入ると、アドヴェントクランツと  
縦ノ木を飾りながら、イエスさまのご降誕を祝う  
準備が始まり、ここ数年、恒例となっています。  
最初のきっかけは、冬至前の日が最も短い時に、  
縦ノ木やクランツに輝くろうそくの灯によって、  
心が明るくなるので、自分を励ますためでした。  
最近、飾りつけをしながら一年間の感謝と同時に、  
これまでの出来事を思い巡らしながら一年の  
締めくくりの時となっています。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは  
今年も変わらない状況ですが、「わたしの思いは、  
あなたたちの思いと異なり・・・わたしの思いは、  
あなたたちの思いを、高く超えている。」(イザ  
ヤ書五五章八・九節)と、主が語ってくださいる御  
声を多くの方が耳にしたかと思えます。

私たちの教会も、様々な場面で主の御業を見せ  
て頂きました。礼拝は会堂にて、月に二回は対面  
で再開できましたが、他の集会は今も圧倒的にス  
カイブ頼りです。その恩恵のひとつを紹介させて  
頂きます。

今年、教会が掲げた目標は、一年間で聖書を通  
読することです。その補助的な役割として、毎週  
水曜日の聖書の学び会で、その週に読まれる聖書  
箇所概要などを大雑把に学んで参りました。聖  
書の学び会は、コロナ禍以前は私の自宅で行って  
いたので、参加できる方は、極、限られています。  
しかし、対面での集会ができなくなると、ス

カイブに変更した為に、遠くにお住まいの方、そ  
して日本からも参加が可能となり、大勢の方と聖  
書通読を共有することができました。

今年最後となる聖書の学び会では、恵みの分か  
ち合いをしました。皆さまの思いは、ほぼ共通し  
ていました。信仰の友と同じ箇所を毎日読むこと  
はとても励まされた。聖書を読むことが生活の一  
部となりの御言葉が身近な存在になった。当初は義  
務感半分、強迫観念もあったが、次第に習慣とな  
り、途中から楽しくなった。

一方では、通読は良いチャンスとなり順調に読  
み続けており、旅行の際にも重い聖書を持参した  
が、読む機会を逸して借金が増えてしまった。挫  
折しそうになった。内容よりも字を追ってゆく感  
じで、ページをめくるのが精一杯・・・等々。素  
直な思いを、我が内にある思いと重ねることもで  
きたと思えます。

更に、来年に向けての抱負も語られました。借  
金した部分を次回はしっかりと読み直していき  
たい。今度は内容をじっくりと味わってみたい。  
という前向きなチャレンジ精神をもって締めく  
くられました。真摯に取り組まれているお一人お  
ひとりに、主は大いなる祝福を与えてくださるこ  
とでしょう。

このように神の家族と一緒に御言葉を読み進  
めてゆくことによって、教会は信仰共同体・神か  
ら呼び集められた人々であることを痛感してい  
ます。そうして教会が目指すゴールは、皆さまと  
一緒にイエスさまの御前に出て、「善かつ忠なる  
僕、よくやった」と、お褒めの御言葉を頂くこと  
です。

今はアドヴェントの時を過ごしていますが、こ  
の時はいエスさまのご降誕・第一の到来だけで  
なく、第二の到来・再臨をも覚える期間でもあり

ます。再臨の時は、世の終わりですが、滅亡では  
ありません。今ある天と地が新しい天と地とな  
り、死者の復活が起きる日でもあります(ヨハネ  
の黙示録二一章)。そうして、神の国・天の御国  
が完成される時ですから、「喜びの時」「大いな  
る希望」の時です。その希望の時を私たちは待ち  
望むのです。

しかし、それはいつ起こるか分からないとい  
エスさまは語っておられます。日常のごく普通  
の日に突如やってくる。それは、思いがけなく、  
夜にやってくる盗人のようだと仰せになります。  
その日がいつであるかは、父なる神以外には知  
らされていませんから、大切なことは、「目を覚  
ましていなさい」(マタイによる福音書二四章四  
二節)と教えられました。

何よって私たちは目を覚ましていることがで  
きるのでしょうか。それは、聖書の御言葉と祈り  
によってです。ですから、毎日、聖書の御言葉に  
触れ、導かれてゆく今日一日の生き方が、イエス  
さまをお迎えする日へと繋がっていくのです。  
今日という日は、必ず終わりの日につながって  
いる尊い貴重な日であることを心に留めながら  
新しい年も毎日、聖書の御言葉に養われて参り  
ましょう。



## 一年間を振り返ってー

ケルンに九ヶ月滞在して

足立 真訓

国際共同研究のため、三月からケルン大学数学科に長期出張しています。同行している妻が、日本語で話せる場所が欲しいとのこと、以前ボンに住んでいた知人の紹介でケルン・ボン日本語教会に通っています。僕にとっては結婚式で牧師に司式していただいていた以来の教会です。幸いコロナ規制もほぼ緩和された時期でしたので、対面で礼拝に参加でき、皆さんと沢山お話できました。

ケルンでの生活情報、特にコロナに罹ってしまった際、助かりました。ドイツの季節感、教会行事と連動していて、ドイツの文化をより深く実感できました。季節の料理も振る舞っていただき、美味しくいただきました。研究者の来訪も多いようで、昔お世話になった先生方の名前を伺って、久々に連絡を取る良い機会となりました。ケルン滞在も残り三ヶ月ですが、帰国後も交流を続けられればと願っています。

足立 幸恵

英語もドイツ語も話せない状態でドイツに住み始めて九ヶ月経ちました。日本とドイツでは労働に対する考え方が全く異なり、ヨーロッパのあまりのいい加減さにイライラすることも多いです。しかし、自分の思いのままに生きることの大切さを彼らから教えてもらったようにも思います。少し外国の地での生活も慣れてきましたが、辛かったことも楽しかったことも心に納めて三月には日本に帰国します。

## ドルトムントのキムより

あっとい間にドイツに来てから三年が経ちました。涙の日もあれば喜びに満ちた日もありました。二〇二三年には、ドイツを幾つ計画を立てていました。でも神様のご計画と御心は別のところに道を開けられていて私達夫婦はその道に



従おうとしてドイツに留まることになりました。ケルン・ボン日本語教会の皆様のお支えと愛でまた決心を新しくしてここからの道を歩みたいと願います。

クリステイナ ユエン

二〇二三年がより良い年となりますように。世界中のすべての人が平和に暮らせるように。

神野 久美子

バザーの献品を持って行ったのがきっかけでまた九月からケルンの教会に集わさせていただいています。車を手放してしまっただでデュッセルドルフからトラム、電車、バスを乗り継いで行くのがドイツ鉄道のいい加減さに啞然としています。でも教会堂での佐々木先生の説教やその後の兄弟姉妹の方たちとの交わり(勿論シュミットさん、藤井さんのおにぎりを含めて)を思うと力が湧いてきてたどりつけます。コロナ、戦争、エネルギー危機と言う時世の中皆様からの愛を日々の生活の中で少しでも伝えられたら幸せです。

佐藤 グルーベ 道子

今年の元旦に通読の詩篇一編三節「その人は流れのほとりに植えられた木。時が巡り来れば実を結び葉もしおれることがない。」この聖句が与えられ、新しい年を踏み出すことができました。それから「来る朝ごとに、朝日とともに、神の光を心に受けて、愛の御旨を新たに悟る」(讚美歌三番)であって時には悩み疑いをも乗り越える励ましを与えられ、大きな希望と喜びに気がつき、神様が私と一緒に読んでくださっているのではとも思われます。馴染みの深い箇所も、川の流れの水の如く生き生きと何とも新鮮に受け止められるので不思議にも感じております。

今年はいよいよコロナのために実現できなかった米國訪問の願いも叶えられ、息子たち家族や友人に再会できたことはとても意味のあることでした。お引越を済ませて二ヶ月以上も経つ今でも家具が揃わず工事現場のような状況にあっても、一日を御言をもってはじめられる幸いを嬉しく思っております。

す。いつの日にか実を結ばせてくださることを期待しつつ。

健康を与えられた日々を感謝し、新しい年にも皆様の上に多くの恵みをお祈りいたします。

シュミット 亜弥子

今年はいよいよ佐々木先生の提案で聖書を一年で通読してみようとなりました。私も一緒に参加し残り少ない聖書箇所を残し無事終わることが出来、佐々木先生に感謝です。

二月六日はニコラウスターク。去年はアパートのドアの前にニコラウスのチョコレートが置いてありました。今年は朝食後に見たらドアの前にクッキーの袋が置いてありました。どなたが置いたのかわかりませんが、きっと私が下に住んでいるポストからの荷物を受け取るお礼だと思えます。この日に感謝を表す習慣は大きさではなくて気持ちが良いものです。まだまだ続いているウクライナとロシアの戦争が早く終わる様祈ります。平和の主イエス様の降誕おめでとうございます。

ドレーアー 京子

外国人の日本入国が可能になり、今年四月、私たちは三年振りに母を訪問しました。暖かな陽射しの中、特別に許可が出て庭で面会することができました。マスクの影響もあり、母の言っている事がなかなか理解できなかったのですが、やっと聞き取れた時には思わず涙が出ました。「幸せそうだね」と、繰り返し言っていたのです。

あれから半年、母は亡くなりました。一日違いで会うことはできませんでしたが、春にももらった母の言葉は、私の大事な宝物です。

橋本 和歌子

二〇二二年も残すところ僅かとなりました。この時期はいつもより時間が瞬く間に過ぎていくようです。また一年を過ぎ去る事に少々寂しく感じています。でも一年間の出来事を思い出すと、神様からの恵みや祝福などを再び実感し、感謝の気持ちが溢れるばかりです。

まず、とても有意義なのは、聖書通読会に参加し



た事です。ドイツ語の勉強との時間が合わないため私は僅かにしか参加出来ませんでした。やはり聖書を学ぶ度に神様の御言葉に感銘し、心が清められます。特に、難しい箇所においては、佐々木先生の解りやすい解釈と兄弟姉妹の各自の感想を聞く、より深く聖書の勉強ができました。

もう一つは、教会の蚤の市の準備を手伝った事です。私は微力ながらも、教会の兄弟姉妹と近所在住の日本人達と力合わせ、教会への奉仕が出来ました。この体験で、神様に愛された人々が如何に一所懸命に神様へ愛を捧げたかを目の当たりにしました。私は神様の家で、皆様の愛に励まされながら再び信仰の道を確認しました。

最後に、ギリシャの家族旅行と無事にアイフェルへの引越しが出来た事です。恒例の年に一度の海外旅行で、体と精神をリフレッシュされ、神様の守りで家族との絆を深める事が出来ました。また、教会の兄弟姉妹のお祈りを頂き、家族と力合わせ、予想以上に引越しが順調に終わりました。目に見えない神様の愛と祝福に感謝します。今年を振り返る事で幸福感と充実感に満たされました。救い主イエスキリストに感謝します。

藤井隼人・藤井弘子  
この年も感謝をもって一二月を迎えています。二月から始まった、ロシアのウクライナ侵攻によって戦争というものを身近な現実として私達は初めて経験している。戦争は、あの第二次世界大戦以降にも世界中で常に起こっていた(いる)にも拘らず、私達には所詮「よそ事」であった。

今、ヨーロッパに住んでいて、地続きの国の人々が日々、兵士のみならず、妊婦から老人に至るまで、巻き込まれていること。神様、助けてください、どうか終わらせて下さい。どうしたら終わらせることが出来るのだろうか。

今年中で嬉しかったこと、ナンバーワンは、コロナの状況によっては中止も考えられた「教会バザー」「教会蚤の市」として三年振りに開かれたこと。私達の老齢化で無理となった食堂(レストラン)を閉店し、「蚤の市」と「古本販売」のみでの開催であった。お馴染みのバザー応援隊の方々はほぼ全員駆けつけて下さり、それぞれ持ち場に着いて下さった。宣伝ポスターには無かったお持ち帰り用食品は、

大量のおにぎりと稲荷寿司、煮物、お惣菜、ごら焼き、ケーキ類、クッキー、お団子、プリン等と並び、全て定価で完売。教会前にワゴン置き、無料で熱い麦茶のセルフサービスをしたのも良かった。好天気に恵まれ、戸外に座ってお茶をしながら三年振りに旧交を温めた人も多かった。



ドイツプロテスタント教会に於ける『Brot für die Welt』(世界にパンを)の事業は、「コロナ禍の中、会堂での礼拝に制限があったため、募金に影響を受けている。その大切な善き働きのために私達の蚤の市がお役に立ちますように。」

我々夫婦は、蚤の市前の、三年振りとなる一時帰国や、その他諸々のことで疲れていたのか、次々とコロナに罹ったが、四回のワクチン接種を受けていたためか、比較的軽い症状で済んだ。この年も敬愛する方々や弘子の姉達の召天など悲しいことはあったが、勇気を頂いて頭を上げ、皆様と共に主の道を生きて行きたいと願っている。

キリスト・イエスは世の光として、平和の君として、今ここにおられる。皆様の上にそのキリスト・イエスの平安と祝福が豊かでありませうように Föhne Weihnachten!

メリークリスマス！この一年も神様に守られ、沢山の恵みに預かることができ感謝いっぱいです。風邪ひとつ引かず、コロナにも負けず健康に過ごせたことも、二年半ぶりに元気な母に会え、通算三ヶ月母の側にいられたことも感謝でした。そして、何よりも嬉しかったことは、キリスト教に全く関心のない姉が教会に通いはじめたことでした。毎日、母や姉、兄たちのことを祈るのですが、叶わない祈りなのかなと虚しさを感じることも多々あったので、本当に驚きました。姉と並んで主日礼拝に参列でき、すでに姉が首里教会の兄弟姉妹と親しく交わっている様子に感慨無量でした。そして、姉の話を聞いていると、神様は長い時間をかけて、巧妙に全

外間 久美子

てを準備されていたことに気づかされ、神のみ業に感動しました。



諦めずに祈り続けることのキーワードで、ある一八歳の生徒のお話です。彼は一〇歳の頃に精神科医の父親に連れられてやってきていたのですが、反抗期に入り、練習は全くしない上に、態度が横柄になっていき、ピアノを憎む、父親が辞めることを許してくれない、一六歳になったらすぐやめてやめようと言う始末。さすがに可哀想になり、父親を説得してやめさせようと思いましたが、精神科医の父親、きっと考えあつてのことだろうと思いやめました。しかし、こんなに大変な生徒は初めてでした。反抗期過ぎたころから反論することもわめくこともなくなりましたが、相変わらず練習はせず、上達もなしでした。

それが、昨年夏にたまたまハイドンのピアノソナタを聴いて魅せられたようで、それを機に練習するようになったのです。そして、次々と持ってくる希望の曲は毎回難易度が上がっているのですが、今のところ全てクリアしています。彼の成長を見て、教師として、信仰者としてまた一つ学びました。

吉丸 おと

皆様、メリークリスマス！益々寒くなる中、いかがでしょうか？私は今、喜びを抑えることができず、嬉しいお知らせを皆様に伝えたいです。そして、今まで本当に身近で支えてくださった皆様に喜びを分かち合いたいのと心から感謝申し上げます。そしてもっと感謝したのは神様の大きい恵みです。和慧は今年、一番願っていた関西学院大学に合格することが出来ました。本当に嬉しいです。ありがとございます。

私と娘の和慧が二〇一〇年一〇月来独以来、あつと言う間に一二年が経ちました。当時、和慧は八歳でした。今年はずいぶん一〇歳です。二人で何も分からず、ひとことドイツ語も分からないで、見知らぬ国に来て、どのようにして言葉や生活に慣れた

らよいかという課題に直面してました。勿論、最初は親戚の助けがあったので、とても大変というわけではありませんでした。そして教会との繋がりはとても大きかったです。最初に藤井さんご夫妻と知り合い、それから林原牧師初め、教会の皆様、それから齋藤牧師、佐々木牧師と、教会は私達にとっては唯一このドイツの地で家族を感じさせ甘やかして頂ける家族です。

この機会に私は心からお礼を申し上げたいです。今まで私たち親子を支えてくださり、ありがとうございます。これからも引き続き見守りをお願い致します。最後に皆様が健康で喜びと感謝いっぱいになります。最後にも皆様がお過ごしますよう、そして良いお年をお迎えくださいますよう心からお祈りします。

小川オスナ 良子

この一二月、インフルエンザが息子の合唱団で流行し、恒例のクリスマスコンサートは一月月延期された。病氣中の息子は家でテレビ三昧。しかし翌週は休暇前のテストに追われ、マイナス八度の寒いドイツの朝、学校へ出かけていく。コロナ禍でこの三年間日本へ行けなかったが、ようやく来年夏の飛行機チケットを予約した。これが私にとってのクリスマスプレゼントになった。私が勤める訪問介護の最年長のおばあさんは九九歳で、とても元気だ。彼女に病気をうつさないように自分の体調管理も気をつけなくてはならない。メリークリスマス！

◇ 報告 ◇



◇九月一日、一八日の主日礼拝は、佐々木良子牧師は夏期休暇のために、スカイプにて齋藤篤牧師(仙台宮城野教会)、会堂にて矢吹博牧師(フランクフルト日本語福音教会)の先生方が説教を担ってくださいました。

◇九月二五日(日)、一八時より、外国語教会主催による夕礼拝がアントニア教会にて開催され、牧師、他三名が参加しました。

◇一〇月一六日(日)、礼拝後スカイプにて、第三回目の懇談会を行いました。

◇一〇月より、ブリュッセル日本語教会の姉妹の洗礼準備会がスカイプにより開始しました。  
◇十一月一日(祝日) 蚤の市を開催し、2288.83€を Brot für die Welt に献金しました

◇十一月八日〜一日、南ドイツにおける欧州教職者研修会に佐々木牧師が参加しました

◇一月二八日、バルセロナ・サグラダファミリア教会等でご奉仕しておられるピアノニストの鈴木羊子姉による特別賛美礼拝をお捧げしました。

◇二月一〇日、一三日、一五日、三年振りに家庭集会においてクリスマス会を開催することができました。

◇二月一日、四〇年近く前にボンに住んでおられた浦川肇兄・恵子姉の長女のめぐみさんがドイツにおいてになり、一緒に礼拝をお捧げし、その後、楽しいお交わりをすることができました。



◇二月一八日に子供と大人のクリスマス礼拝を会堂にて行いました。来年度にスターに受洗予定のブリュッセル日本語教会のA姉妹のお証し、オーストラリアに留学しておられたS姉の賛美指導等、恵みに満ちたクリスマス礼拝となりました。尚、ブリュッセル日本語教会からも三名が参加されました。S姉妹は二月二八日〜三一日までスイスで行われるユースの年末集会に参加する予定です。

◇ お知らせ ◇

◇十二月より、暖房費節約のために、会堂での礼拝は、ドイツ教会礼拝後の、第一・第三日曜日に変更しました。

◇二月二五日は、スカイプにて賛美礼拝を行う予定です。この日のみ、一〇時からの開始となります。

◇ 予告 ◇

二〇二三年 新年礼拝

日時 一月一日(日) 礼拝一四時

会堂・スカイプ

◇一月二九日 教会定期総会

一〇時〜一時スカイプにて

◇二月二日〜四月四日迄、佐々木良子牧師は宣教報告のために日本に一時帰国の予定です。牧師不在中は、矢吹博牧師(フランクフルト日本語福音教会)増谷啓伝道師(オランダ南部教会)、Conny Steeke 宣教師が説教下さいます。また、ミュンヘン日本語教会、ブリュッセル日本語教会のズームに参加を予定しています。

◇ 編集後記 ◇

今年もコロナ禍から始まり、天災や戦争等、次々暗雲が立ち込めている中で、二〇二二年を閉じようとしています。しかし、このような中でも聖歌にありますように「数えて見よ、主の恵み」とありますように、インターネットを介したからこそこの思いもよらない展開もありました。そこで教えられることも沢山です。来年こそは戦争も終結し、主にある新しい世界が繰り広げられてゆくよう期待したいものです。二〇二三年も主のお恵みが豊かに注がれますようにお祈りも申しあげます。(佐々木良子牧師)

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会  
**Japanische Evangelische Gemeinde**  
**Köln-Bonn e.V.**

<主日公同礼拝>  
 会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche  
 住所: An der Decksteiner Mühle 1  
 50935 Köln (Lindenthal), Germany  
 電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)  
 時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00

<牧師> 佐々木良子 (Pfr' Ryoko SASAKI)  
 牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln  
 固定電話: 02234-9298792  
 携帯電話: 0151-2910 6278  
 Email: r310130s@yahoo.co.jp

<ホームページ>  
<http://koelnbonn.jp>

<振込口座>  
 IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38  
 BIC: PBNKDEFF